



ごあいさつ

調布三曲協会

会長 渡辺 泰子

梅一輪一輪ずつの暖かさと申します今日この頃、皆様には御健やかにお過ごしのことと存じます。

さて私共調布三曲協会も創立四十周年を迎え、ここに記念演奏会を開催させていただきますが出来ました。

これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝致しております。

四十年の歩みの中で、箏、三味線、尺八を中心とする邦楽の世界も時代と共に少しずつ変化をしております。

調布三曲協会は日本の伝統文化を大切にしつつ、新しい時代の文化を創造しながら会員一同、演奏、指導にと日々精進しております。

邦楽が少しでも身近に感じていただけるように、また、生涯学習としての分野でも多くの人々にかかわってほしいと願っております。

これからも変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます本日のご挨拶にかえさせていただきます。



調布三曲協会創立四十周年を祝して

調布市長 吉尾 勝征

調布三曲協会が創立四十周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協会は調布市文化協会創立五年前に繕成されて以来、日本の伝統音楽を愛する気持ちで地域文化の構築と振興に取り組まれるとともに、市民文化祭への参加や生涯学習推進へのご協力が心から敬意を表します。

二十一世紀に突入した今日、従来からの制度や仕組み等が構造改革の動きや高度情報通信技術の発展のなかで大きく変貌し、私たちの生活スタイルや習慣も徐々に変化してまいりました。

このような状況下で、新たな時代に向けて先人から受け継いできた伝統音楽や文化を次世代に伝えることは、今を生きる私たちの責務といえます。

私たち日本人にとりましては、邦楽器の音色は心やすらぐものです。今回の記念演奏会において素晴らしい演奏をご披露されました、多彩で豊かな感性と創造性を発揮されるときともに、日本音楽を愛する人々の輪が更に大きく広がることを念願してやみません。

この四十周年の記念演奏会に際し、調布三曲協会の今後ますますのご発展とご活躍、併せて皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます、お祝いのご挨拶いたします。



祝 辞

調布市文化協会

会長 連代 義明

初春寿ぐこの時期に、調布三曲協会創立四十周年記念演奏会を、開催されますことに、天馬天空を駆けるがごとく、慶ばしいことと、心よりお祝い申し上げます。

また会長始め、三曲協会の皆様は調布市の文化祭など文化協会に係る各行事などには、率先して協力していただいております事に、感謝致しております。

三曲協会は四十年にわたり、伝統ある日本古来の、邦楽の真髓と云うべき箏、尺八などによる演奏、日本人の心にしみる曲を奏でてこられたことに、三曲協会の方々と先輩諸兄に改めて敬意を表します。

結びに調布三曲協会の益々のご発展と、ご隆盛を願ひ会員皆様様のご健康、ご多幸を祈念申し上げて祝辞とさせていただきます。

ぷろぐらむ

- 一 春の夜
- 二 ロンドンの夜の雨 衛兵の交替
- 三 蘆刈
- 四 望郷の歌
- 五 ブルー・レジェンド
- 六 初鶯
- 休憩 ——
- 七 心ときめくとき
- 八 琉球民謡による組曲
- 九 火垂る
- 十 須磨の嵐
- 十一 豊年太鼓

司会 山口 宮子

一 春の夜

作曲 宮城 道雄

箏本手 原田真樹子

井坂 糸子

箏替手 角岡 暁子

尺八 橋本 洋

あるじはたそやしら梅の、香りにむせぶ春の夜は、
朧の月をたよりにて、しのび聞きけんつま琴が、

そのわくらわの手すさびに、そぞろに酔へる人心ひとこころ

かすかにもれし、ともし火に、花の姿は照りしとか。

たをりははてじ花の枝、馴なれしやどりの鳥なかん。

朧の月のうらみより、その夜くだちぬ春の雨。

ことは空しく音を絶えて、いま将はたしのぶ彼ひとり、

ああ、その夜半よはの梅が香を、ああ、その夜半の月影を。

二 ロンドンの夜の雨

衛兵の交替

作曲 宮城 道雄

箏 佐藤 吉和

欧

三
蘆
刈

作曲 不詳
作詞 不詳

三 絃 村岡 ふみ
八 門傳 良男
尺

名に高き 難波の浦の夏景色

風にもまれしあしの葉の さわさわと

音に聞く。 ここには伊勢の浜荻を

よしやあしとは たがつけし

我は恋にはくるはねど 恋という字に迷うゆえ

さりとは 白さぎの とどまれとまれと 招く

手風に行きすぎて またもよほす浜風に

あしもさわだつ磯の浪 松風こそはざざんざ。

四 望郷の歌

作曲 森岡 章

箏 阿部力ヨ子
十七絃 駒井 孝子
尺八 門傳 良男

遥

五 ブルー・レジエンド

作曲 水川 寿也

一 箏 原田真樹子
二 箏 柴田 裕子
十七絃 美薦 洋子
尺 八 橋本 洋

珀石

六 初 鶯

作 曲 宮 城 道 雄

箏 本 手

村 田 章 子

松 田 孝 子

中 西 賀 代 子

箏 替 手

土 橋 由 美

上 口 房 子

阿 部 力 ヨ 子

尺 八

橋 本 竹 咏

鶯うぐいすの初音はつねめづらし梅うめ一樹ひときたづねて来きなく

鶯うぐいすの初音はつねめづらし今日けふよりはつぎて鳴なかなん

あすよりはなれて鳴なかなん散ちる花はなの深はなさも知らで

残のこる夜よの夢ゆめの枕まくらを鳴なきさます聲こゑも此聲このこゑ

月つきかすむ夕山ゆふやまかげに柴人しばひとのかへさおくりて

鳴なきのこる聲こゑも此聲このこゑ今日けふよりはつぎて鳴なかなんなれて鳴なかなん

七 心ときめくとき

作曲 石森 康雄
編曲 渡辺 泰子

一 箏 柴田 裕子

角岡 暁子

田村 博寿

二 箏 石森 康雄

渡辺 泰子

吉川 和博

十七 絃 田代せつ子

駒井 孝子

ほのかに沸き上がる喜び ……

誰にも知られぬように ……

そっと胸に秘める ……

夢、あこがれ、ふくらむ想い ……

余韻がさめ、また、いつもの自分に戻る ……

自分だけの一番しあわせなひととき ……

それは …… 心ときめくとき ……

八 琉球民謡による組曲

作曲 牧野由多可

一 箏 村岡 ふみ
二 箏 中西賀代子
十七絃 田代せつ子
尺八 橋本 洋

結

九 火垂る

作曲 沢井 忠夫

十七絃 後藤 好子

哀

十 須磨の嵐

作曲 山登 万和

箏

田村 博寿

吉川 和博

三 絃 美蔦 洋子

前弾 シテそもそも熊谷尚実は、征夷將軍源の、ツレ頼朝公の臣下に
て関東一のはたがしら、知勇兼備の大将と、世にもしられし勇
士なり、合されば元暦元年の、源平須磨のたたかひに、功名あ
りし物語、さくもなかなかあはれなり、合ワキその時平家の武者
一騎、沖なる船におくれじと、駒を波間^{なみま}にかけ入れて、一町^{いっちょう}ば
かり進みしを、ツレ扇をあげてよびもどし、互にしのぎをけづり
しが、合ワキ見れば二八の御顔に、ワキ花をよそほふ薄化粧、ワキか
ねくろぐろとつけたまふ、ワキかかるやさしきいでたちに、シテ君
はいかなる御方か、名のり給へとありければ、三弦 本調子 ワキしたよ
り御声^{おんこゑ}さわやかに、我こそ参議経盛の、三男無官^{むくわん}の敦盛ぞ、は
やはや首をうたれよと、西にむかひて手を合す、合シテ流石^{りき}にた
けき熊谷も、我子の事まで思ひやり、落つる涙はとどまらず、
鎧^{よろひ}の袖をしぼりつつ、是非^{ぜひ}なく太刀^{たち}をふりあげて、許させたま
へとばかりにて、あへなくしるしをあげにけり、ワキむざんや花
の荅^{つばみ}さへ、ツレ須磨の嵐に散りにけり、合これを菩提^{ぼだい}のたねとし
て、なきあと長く甲^{とむら}はむ、心おきなく往生^{わうじやう}を、とげたまはれと
言ひのこし、シテ青葉の笛をとりそへて、ワキ八島の陣へと送りし
は、ツレげに情^{なさけ}あるもののふの、シテ心のツレうちぞあはれなる。

十一 豊年太鼓

作曲 宮田耕八朗

箏

渡辺 泰子

阿部力ヨ子

井坂 糸子

石森 康雄

中西賀代子

原田真樹子

三 絃

美薦 洋子

角岡 曉子

土橋 由美

村岡 ふみ

十七 絃

田代せつ子

駒井 孝子

柴田 裕子

尺 八

橋本 竹咏

門傳 良男

打楽器

望月太喜之丞

祭

舞台進行 宮城野樂器

舞台照明 東京舞台

印刷 (有)内外印刷

写真 真 秋本 實

文字カット 吉川 和博

表紙文字 門傳 良男

調布三曲協会会員住所

〔筆名〕

阿部カヨ子	調布市深大寺東町八―八―六	○四二四(八五)	二八八三	原田眞樹子	調布市小島町二―五四―四	○四二四(八五)	三三七九
井坂 系子	調布市国領町六―二〇―七	○四二四(八三)	九二二五	ライオンズブラザ調布シティ八〇―一号		○四二四(八三)	二三七九
石森 康男	調布市染地二―二―二	○四二四(八三)	三七六七	美薦 洋子	調布市布田五―二―三五	○四二四(八八)	〇七五〇
角岡 暁子	杉並区高円寺南一―六―二四	○三(三三一四)	二三〇一	村岡 ふみ	調布市布田二―七―四	○四二四(八二)	一二四一
上口 房子	調布市東つじヶ丘三―二―三七	○三(三三〇五)	五四七七	村田 章子	調布市西つじヶ丘二―〇―四	○四二四(八四)	三八六八
後藤 好子	調布市布田一―四五―六〇六	○四二四(八五)	八九九三	山下 繁雄	調布市国領町八―一―三五	○四二四(八五)	三七八九
駒井 孝子	調布市深大寺北町一―二―二	○四二四(八二)	八三一三	吉川 和博	調布市西つじヶ丘四―三六―四	○四二四(八三)	三三六九
佐藤 吉和	世田谷区南島山五―一―二一	○三(三三〇八)	八一〇五	渡辺 泰子	調布市染地三―一―八九〇	○四二四(八六)	五一七六
柴田 裕子	調布市柴崎二―一―三	○四二四(八六)	六三四五				
田代せつ子	つじヶ丘ハイムA―四〇四	○三(三三〇〇)	五七七三	橋本 竹咏	八王子市めじろ台四―二九―八	○四二六(六六)	〇三三八
田村 博寿	調布市上石原二―三―二〇	○四二四(八四)	〇一五九	橋本 洋	調布市下石原三―七一―一	○四二四(八六)	七七一五
土橋 由美	調布市染地三―一―九	○四二四(八五)	六四三二	三輪 輝夫	調布市下石原三―三六―四	○四二四(八八)	三三三一
中西賀代子	調布市布田四―三―五	○四二四(八二)	〇九〇〇	門傳 良男	調布市多摩川七―三四―九	○四二四(八六)	四四七二